

三浦半島のシログワイの記録

大谷 茂・小山 鉄雄

Eleocharis dulcis Trinius, newly found in Miura Peninsula

Shigeru OHTANI* and Tetsuo KOYAMA**

(with 1 Text-figure)

著者の一人大谷が 1959 年秋に三浦半島久里浜で採集し、クログワイとして発表した (1960) ものは、研究の結果、シログワイ *Eleocharis dulcis* TRINIUS*** であることがわかった。シログワイは別名をイヌクログワイともいい、アフリカ・インド・マレーシア・南洋諸島から南支那・琉球・台湾など旧世界の熱帯に広く分布している種類で、日本では産地はむしろ少なく、現在九州および紀伊半島に記録があるに過ぎない。従って三浦半島のみならず東日本のフロラへ新たに付加すべきものである。

シログワイはクログワイと同じく、横隔膜で仕切られた中空で円い茎をもち、長い地下茎の先端に小さなクワイ様の塊茎を着ける。両者の区別点は Fig. 1 に示したような、穂の鱗片と果実の形である。クログワイ (Fig. 1 左) では鱗片は先端ゆるく窄まり、長さは巾の約 3 倍ほどあり、果実は広倒卵形で上端に近くもっとも巾広く、花柱基部は果体の巾の 1/3 くらいである。しかし、シログワイ (Fig. 1 右) では鱗片の先は斜截形に終り、長さは巾の 1.5 倍くらい、果実は倒卵楕円形で中央付近がもっとも巾広く、花柱の基部は果体の巾の約 1/2 である。果実の熟したころの鱗片の色はクログワイで褐色であるのに対してシログワイでは白っぽい緑色である。

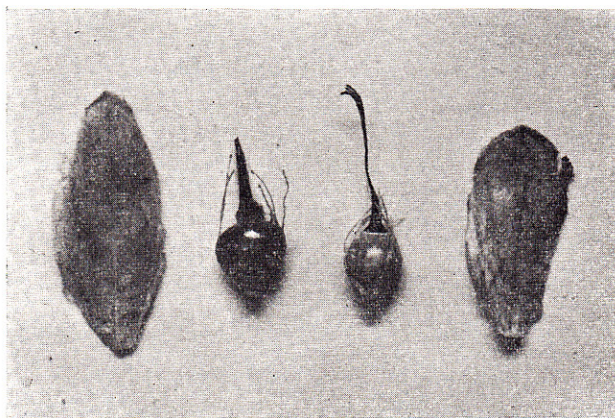


Fig. 1. シログワイ (右) とクログワイ (左) の鱗片と果実。
Floral scales and achenes of *E. dulcis* TRIN. (right)
and *E. Kuroguwai* OHWI (left).

* Yokosuka City Museum, Yokosuka, Japan.

** Botanical Institute, Faculty of Science, University of Tokyo, Japan.

*** シログワイ *Eleocharis dulcis* (BURM. f.) TRINIUS.

横須賀; 久里浜, 大谷茂 Nov. 10, 1959—紀伊・九州。

中華料理に使ういわゆる“クログワイ”は実はシログワイの一変種で、塊茎の径が3 cm 以上にもなるオオクログワイ (*E. dulcis* var. *tuberosa* T. KOYAMA) である。オオクログワイは南支那でよく栽植されているが、日本でもときどき植えている。

シログワイやクログワイでは茎が巾広く、穂はむしろ巾が狭いので、穂と茎が殆んど同じ巾である。この点がシカクイやヌマハリイなど一般のハリイ属植物と一見して異なるところである。このような外形を持つハリイ属の一群は熱帯に多く、また水中に特に生えるが、まとめてクログワイ節 (*Limnochloa* [NEES] TORREY) というグループを作る。日本にはクログワイ・シログワイのほかにミスミイの3種がこの節に属する。ミスミイの茎は3稜形で、中実、シログワイのような横隔膜はない。

Summary

A kind of water chestnuts, collected by the senior author in the vicinity of Kurihama in November 1959, was hereby determined as *Eleocharis dulcis* (BURM. f.) TRINIUS. This record appears to be apparently new to the flora of Eastern Japan, because it has hitherto been known in Kii Peninsula and westwards in the mainland of Japan, though being distributed very widely in the Old World tropics. The so-called Chinese Water Chestnut of the Chinese meals is a tuber of a cultivated variety of this species, of which the name is *E. dulcis* TRIN. var. *tuberosa* (ROXB.) T. KOYAMA. The photograph attached here shows the difference between this and closely allied *E. Kuroguwai* OHWI, a hardy Japanese population.